

三福祉士国家試験と社会福祉歴史教育 － 国家試験で出題される歴史に関する設問の実態調査 －

東洋大学大学院 博士後期課程

佐藤 昭洋

1. はじめに

社会福祉士、介護福祉士の国家試験は来年度で 30 周年、精神保健福祉士の国家試験は 20 周年を迎える。これらの国家資格は、毎年国家試験を実施している。この 10 年を振り返ると、2009（平成 21）年の「社会福祉士及び介護福祉士法」一部改正に伴い、国家試験も旧試験科目から新試験科目へと転換するなど大きな変化があった。また国家試験において社会福祉の歴史に関する設問は、それ固有の試験科目はないものの、毎年複数科目にわたって複数問出題されているのが現状である。

福祉士養成課程における歴史教育との関連性から考えると、「社会福祉史」、「社会事業史」といった社会福祉における歴史教育と、国家試験に求められる歴史に関する知識との関連性は一貫してきたのか。直近においても、地域社会福祉史研究会連絡協議会の第 16 回研究交流会報告において、「…長谷川匡俊代表からの挨拶では、大学などの教育機関が、社会福祉史研究を教育の面から重視し、歴史というものが大切であるとの認識をもたなくてはならないが、現実には厳しい状況である。本団体としても、歴史教育の重要性を世に問うていく必要があると考えるとの、重要な指摘が述べられた¹⁾」とあるほどである。本研究では、これまでの三福祉士の国家試験において試験合格のために求められてきた社会福祉の歴史知識とは、国家試験の中でどのように展開されてきたのかを明らかにする。

本研究は介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士の三福祉士における今年度の最新回を含めた過去 10 年間の過去問題を対象とし、量的調査と質的調査を組み合わせることによって社会福祉に関する歴史設問の出題傾向の実態を実証することで、日本の社会福祉の歴史教育の動向を踏まえた国家試験における歴史に関する出題について考察することを目的とした。

本研究では、標本抽出や単純集計などによる量的調査から歴史に関する設問数を整理し、ナンバリングやカテゴリー分けによる質的調査によって設問の歴史に関する内容について把握することを本研究の調査とした。本研究における調査目的は、社会福祉に関する歴史設問の出題傾向の実態を実証することである。

また調査方法は、以下の 6 つの手順に沿った。

- ①2016（平成 28）年度から過去 10 年間分の介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士の国家試験を収集した。
- ②標本抽出として、収集した過去問題から社会福祉の歴史に関する問題を抽出した。
- ③単純集計として、抽出した設問数を試験回別、試験科目別、三福祉士の試験年度別、資格別の集計をとった。
- ④ナンバリングとして、三福祉士の集計した問題を 1 つのデータとして番号を振り分けた。
- ⑤ナンバリングしたデータからカテゴリーを作成し、各カテゴリーの集計をとった。

⑥レーダーチャートによる統計処理を行い、集計結果を視覚的に把握した。

2. 三福祉国家試験の出題方針と社会福祉歴史教育の経緯

本研究における先行研究には、新試験科目導入にあたっての社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家試験の在り方に関する報告書や、『社会事業史研究』第 49 号における歴史教育委員会が報告した社会福祉の歴史教育に関する奉告を選定した。これにより、新試験科目導入当時の国家試験の出題方針と社会福祉における歴史教育の最新動向が把握できる。

まず、社会福祉士と介護福祉士の国家試験についてである。「他方、こうした養成課程を経て、社会福祉士及び介護福祉士として相応しい知識及び技術を有していることを最終的に確認する「国家試験」については、社会福祉士・介護福祉士制度創設からこれまでに 20 回にわたり実施されてきたが、「社会福祉士及び介護福祉士法」一部改正法成立の際の両院の附帯決議において「必要な知識及び技能を総合的に評価できるような内容となっているかどうかについて検証を行うこと」が指摘されているように、より資質の高い社会福祉士・介護福祉士を養成していくため、その在り方を検証していくことが必要となっている²⁾とある。

続いて「2. 国家試験の基本的性格について」では、「○社会福祉士・介護福祉士国家試験は、基本的に、①社会福祉士にあっては「相談援助」を実践する専門職として、②介護福祉士にあっては「介護」を実践する専門職として、それぞれ必要とされる基本的な知識及び技術が網羅的に備わっていることを確認・評価するものとして位置づけられる。また、国家試験は、養成課程における教育内容の標準化を図るとともに、充実を促進する機能も有している。○こうした点を踏まえ、国家試験においては、専門職としての実践を行う上で必要不可欠な知識及び技術に焦点を当てて出題すべきであり、実践の場面での判断力を問う問題であることを意識しながら、問題作成が行われることが必要である³⁾」

一方、精神保健福祉士については、「1. 国家試験に係る基本的な事項について」の「(1) 出題の基本的な考え方」において、「○精神保健福祉士国家試験の出題の難易度は、精神保健福祉士としての資格をどのように設定するか、ということに繋がる。精神保健福祉士国家試験の出題の難易度は標準的であるべきであり、精神保健福祉士に必要とされる基本的な専門的知識や技術を網羅的に備わっていることを確認するものであることが必要である。○また、共通科目がある社会福祉士国家試験とは、両資格の独自性を踏まえつつ、ソーシャルワーカーの国家資格としての整合性に配慮することが必要である⁴⁾」としている。

以上のように、国家試験で出題される設問とは、各資格で求められる標準的な難易度であり、かつ必要な知識としての、そして各資格の独自性を踏まえたもののようである。また、社会福祉士、介護福祉士に関しては「社会福祉士及び介護福祉士法」一部改正により、より「実践」を意識した問題を出題する方向性となっている。では、その国家試験の問題に対応するための教育はどのようなになっているか。とりわけ、社会福祉の歴史教育におけるその最新動向を把握した。

まず、野口は「しかし、現状の問題として社会事業史学会による調査、日本社会事業学校連盟による調査等から歴史教育の重要性に関する議論を十分に行わないまま大学のカリキュラムが作られたこと、2009 年の社会福祉士試験指定科目の改訂で歴史教育の位置づけ

が後退したことが指摘されている（永岡 2013）⁵⁾」としており、さらに、「一番ヶ瀬康子は大学教育が国家試験の合格率を高めることに傾斜しているとし、「このような状況では、福祉実践を高めさらに社会福祉政策を実践的に充実、批判形成するための認識は育たない」と述べた（一番ヶ瀬 2005：4）。現在の社会福祉教育はこのような懸念を払拭できていない。大学のカリキュラムにおいては、社会福祉教育のカリキュラムに社会福祉の歴史を学ぶ時間を位置づけ、社会福祉専門職を希望する学生に社会福祉の歴史を学ぶ機会を保証し、学生に学ぶ意味を伝えていく必要がある。同時に、学びの内容も吟味する必要がある⁶⁾」としている。

また、小池は「ところが歴史教育の位置づけは、1987年の社会福祉士及び介護福祉士法（以下、「福祉士法」と略）制定前後から揺らぎ始める。福祉士法制定直前の1986年、学校連盟は社会福祉専門職養成基準と題する。福祉専門職養成のガイドラインを決定した。…このガイドラインについては、「あらゆる社会福祉職種の基礎的資格要件を学ばせるものであった」との評価もあるが（大橋 1998：35）、歴史教育にとっては明らかな後退であった」とし、「実践力の高い社会福祉士」を養成するため2007年に福祉士法の改定が行われ、社会福祉史は、「社会福祉原論」に代わる「現代社会と福祉」の教育に含むべき8項目の一つとして、しかも「福祉制度の発達過程」に矮小化されてしまったのである（厚生労働省 2008）」と指摘している。そこで、「歴史教育は「社会福祉教育のベース」であると確認されてきたにもかかわらず、なにゆえ1980年代中期以降の専門職養成志向の高まりと共に軽視されるようになったのであろうか⁷⁾」と疑問を呈している。以上のように、社会福祉における歴史教育は、社会福祉士の試験科目改訂により、その位置づけが後退したと指摘されている。

では、より「実践」を意識した出題と化してきた国家試験の方向性は、社会福祉の歴史に関する出題をも衰退させてきたのか。その実態を実証する意味でも、次節以降では三福祉士の国家試験の過去10年間を振り返り、その集計をとり統計にまとめた。

3. 介護福祉士国家試験

介護福祉士国家試験（筆記試験）の総問題数は、120問である。

表1 介護福祉士国家試験21回～29回までの歴史設問

旧試験科目					
番号	試験科目	21回	22回	23回	計
1	社会福祉概論	1		1	2
2	老人福祉論				0
3	障害者福祉論	1		1	2
4	リハビリテーション論				0
5	社会福祉援助技術	1	1		2
6	レクリエーション活動援助法	1			1
7	老人・障害者の心理				0
8	家政学概論				0
9	医学一般				0
10	精神保健				0
11	介護概論				0
12	介護技術				0
13	形態別介護技術				0
計		4	1	2	7

旧試験科目の回数別では、21 回が 4 問、22 回が 1 問、23 回が 2 問出題された。

旧試験科目の科目別では、社会福祉概論が 2 問、老人福祉論が 2 問、社会福祉援助技術が 2 問、レクリエーション活動援助法が 1 問出題された。

新試験科目

番号	試験科目	24回	25回	26回	27回	28回	29回	計
1	人間の尊厳と自立、介護の基本		1		1	1		3
2	人間関係とコミュニケーション							0
3	コミュニケーション技術							0
4	社会の理解	1		2	1			4
5	生活支援技術							0
6	介護過程							0
7	発達と老化の理解							0
8	認知症の理解							0
9	障害の理解							0
10	こころとからだのしくみ							0
11	医療的ケア							0
12	総合問題							0
計		1	1	2	2	1	0	7

新試験科目の回数別では、24 回が 1 問、25 回が 1 問、26 回が 2 問、27 回が 2 問、28 回が 1 問、29 回が 0 問出題された。

新試験科目の科目別では、人間の尊厳と自立、介護の基本が 3 問、社会の理解が 4 問出題された。

4. 精神保健福祉士国家試験

精神保健福祉士国家試験（専門科目）の総問題数は、80 問である。

表2 精神保健福祉士国家試験11回～19回までの歴史設問

旧試験科目（専門科目）

番号	試験科目	11回	12回	13回	14回	計
1	精神医学			2		2
2	精神保健学		1		1	2
3	精神科リハビリテーション学	1				1
4	精神保健福祉論	3	1	3	1	8
5	精神保健福祉援助技術					0
6	精神保健福祉援助技術（事例問題）					0
計		4	2	5	2	13

旧試験科目の回数別では、11 回が 4 問、12 回が 2 問、13 回が 5 問、14 回が 2 問出題された。

旧試験科目の科目別では、精神医学が 2 問、精神保健学が 2 問、精神科リハビリテーションが 1 問、精神保健福祉論が 8 問出題された。

新試験科目（専門科目）

番号	試験科目	15回	16回	17回	18回	19回	計
1	精神疾患とその治療		1		1		2
2	精神保健の課題と支援						0
3	精神保健福祉相談援助の基盤	2		1	1	1	5
4	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2		1	1		4
5	精神保健福祉に関する制度とサービス						0
6	精神障害者の生活支援システム	1					1
計		5	1	2	3	1	12

新試験科目の回数別では、15 回が 5 問、16 回が 1 問、17 回が 2 問、18 回が 3 問、19 回が 1 問出題された。

新試験科目の科目別では、精神疾患とその治療が 2 問、精神保健福祉相談援助の基盤が 5 問、精神保健福祉の理論と相談援助の展開が 4 問、精神障害者の生活支援システムが 1 問出題された。

5. 社会福祉士国家試験

社会福祉士国家試験（共通科目・専門科目）の総問題数は、150 問である。

表3 社会福祉士国家試験21回～29回までの歴史設問

旧試験科目			
番号	試験科目	21回	計
1	社会福祉原論	2	2
2	社会保障論	1	1
3	公的扶助論	1	1
4	地域福祉論	2	2
5	心理学		0
6	社会学		0
7	法学		0
8	医学一般		0
9	老人福祉論		0
10	障害者福祉論	1	1
11	児童福祉論	1	1
12	社会福祉援助技術		0
13	社会福祉援助技術(事例)		0
14	介護概論		0
	計	8	8

旧試験科目の回数別では、21 回が 8 問出題された。

旧試験科目の科目別では、社会福祉原論が 2 問、社会保障論が 1 問、公的扶助論が 1 問、地域福祉論が 2 問、障害者福祉論が 1 問、児童福祉論が 1 問出題された。

新試験科目

番号	試験科目	22回	23回	24回	25回	26回
1	人体の構造と機能及び疾病					
2	心理学理論と心理的支援					
3	社会理論と社会システム					
4	現代社会と福祉	4	3	3	2	
5	地域福祉の理論と方法	2	1	1	1	1
6	福祉行財政と福祉計画					
7	社会保障	1		1	1	1
8	低所得者に対する支援と生活保護制度	1	1	1	1	
9	保健医療サービス					
10	権利擁護と成年後見制度					
11	社会調査の基礎					
12	相談援助の基盤と専門職	1	2		1	1
13	相談援助の理論と方法					
14	福祉サービスの組織と経営					
15	高齢者に対する支援と介護保険制度	1				1
16	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1	1	1		
17	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				1	1
18	就労支援サービス					
19	更生保護制度					
	計	11	8	7	7	5
番号	試験科目	27回	28回	29回	計	
1	人体の構造と機能及び疾病				0	
2	心理学理論と心理的支援				0	
3	社会理論と社会システム			1	1	
4	現代社会と福祉	1	1		14	
5	地域福祉の理論と方法	1	1	4	12	
6	福祉行財政と福祉計画				0	
7	社会保障	1		1	6	
8	低所得者に対する支援と生活保護制度		1		5	
9	保健医療サービス	1			1	
10	権利擁護と成年後見制度				0	
11	社会調査の基礎				0	
12	相談援助の基盤と専門職	1		2	8	
13	相談援助の理論と方法				0	
14	福祉サービスの組織と経営				0	
15	高齢者に対する支援と介護保険制度			1	3	
16	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1	1		5	
17	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		1	1	4	
18	就労支援サービス				0	
19	更生保護制度				0	
	計	6	5	10	59	

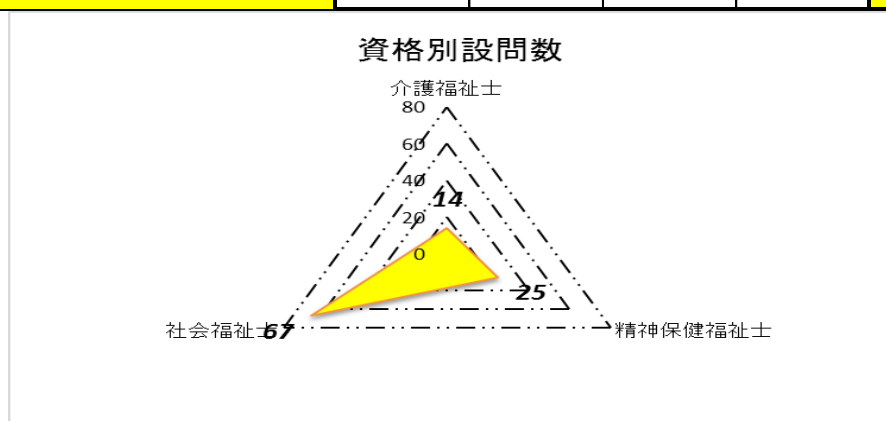
新試験科目の回数別では、22 回が 11 問、23 回が 8 問、24 回が 7 問、25 回が 7 問、26 回が 5 問、27 回が 6 問、28 回が 5 問、29 回が 10 問出題された。

新試験科目の科目別では、社会理論と社会システムが 1 問、現代社会と福祉が 14 問、地域福祉の理論と方法が 12 問、社会保障が 6 問、低所得者に対する支援と生活保護制度が 5 問、保健医療制度が 1 問、相談援助の基盤と専門職が 8 問、高齢者に対する支援と介護保険制度が 3 問、障害者に対する支援と障害者自立支援制度が 5 問、児童の家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度が 4 問出題された。

6. 三福祉士国家試験の統計

表3 3福祉士国家試験過去10年間の歴史設問

番号	試験科目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1	介護福祉士	4	1	2	1	1
2	精神保健福祉士	4	2	5	2	5
3	社会福祉士	8	11	8	7	7
計		16	14	15	10	13
番号	試験科目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	計
1	介護福祉士	2	2	1	0	14
2	精神保健福祉士	1	2	3	1	25
3	社会福祉士	5	6	5	10	67
計		8	10	9	11	106



三福祉士の年度別では、2008 年度が 16 問、2009 年度が 14 問、2010 年度が 15 問、2011 年度が 10 問、2012 年度が 13 問、2013 年度が 8 問、2014 年度が 10 問、2015 年度が 9 問、2016 年度が 11 問出題された。

三福祉士の資格別では、介護福祉士が 14 問、精神保健福祉士が 25 問、社会福祉士が 67 問出題された。

過去 10 年間の歴史に関する 106 の設問の問題内容は以下の通りである。

※介護＝介護福祉士 精神保健＝精神保健福祉士 社会＝社会福祉士

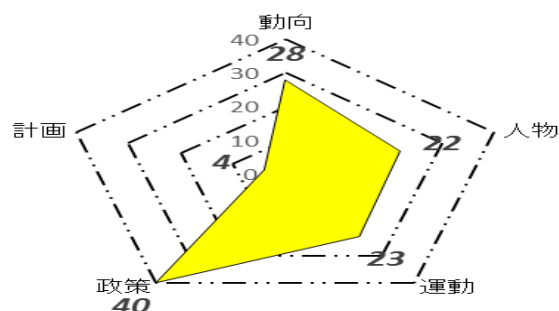
番号	資格名	回	設問番号	歴史設問抽出基準ワード(複数の場合もあり)	
1	介護	21回	問題1	(問題文)	我が国の戦後の社会福祉制度の成立
2	介護	21回	問題19	(選択肢)	障害者の権利宣言, ADA
3	介護	21回	問題30	(問題文)	人物とその業績
4	介護	21回	問題35	(問題文)	レクリエーションの発展過程
5	介護	22回	問題28	(選択肢)	パートレット, リッチモンド, パワーズ, ホリス, パールマン
6	介護	23回	問題4	(問題文)	日本の社会保障・社会福祉の歴史
7	介護	23回	問題20	(問題文)	障害者の権利保障の歴史
8	介護	24回	問題10	(問題文)	社会福祉の歩み
9	介護	25回	問題17	(問題文)	1963年(昭和38年)
10	介護	26回	問題8	(選択肢)	1950年(昭和25年)以降, 1980年代前半
11	介護	26回	問題11	(問題文)	社会保障制度の歩み
12	介護	27回	問1	(問題文)	1956年(昭和31年), 朝日茂
13	介護	27回	問8	(問題文)	社会福祉の推移
14	介護	28回	問1	(問題文)	糸賀一雄
15	精神保健	11回	問題24	(問題文)	精神科リハビリテーションの歴史的事項
16	精神保健	11回	問題31	(選択肢)	国際人権規約, 障害者の権利宣言, 障害者に関する世界行動計画
17	精神保健	11回	問題32	(問題文)	我が国の精神保健福祉の歴史
18	精神保健	11回	問題33	(選択肢)	ヘルシンキ宣言, ヴォルフエンズベルガー, ミケルセン, ニイリエ
19	精神保健	12回	問題17	(問題文)	法律及び出来事の年代順
20	精神保健	12回	問題35	(問題文)	我が国の精神保健医療・福祉関係法規の歴史
21	精神保健	13回	問題1	(問題文)	人物と業績
22	精神保健	13回	問題2	(問題文)	人物と事柄
23	精神保健	13回	問題31	(選択肢)	世界人権宣言, 国際人権規約, 障害者の権利宣言, 障害者に関する世界行動計画
24	精神保健	13回	問題34	(問題文)	国際的な精神医療の歴史
25	精神保健	13回	問題35	(問題文)	精神保健福祉関連法規の歴史
26	精神保健	14回	問題11	(問題文)	ウンスロウの公衆衛生の定義
27	精神保健	14回	問題34	(選択肢)	精神病院法, 精神衛生法, 精神保健法
28	精神保健	15回	問題23	(問題文)	精神保健福祉士国家資格成立に至るまでの精神科ソーシャルワーカーの歴史
29	精神保健	15回	問題25	(選択肢)	1950年代, ビーブルファーストの運動, 1960年代から1970年代, ニイリエ
30	精神保健	15回	問題36	(問題文)	精神保健医療福祉関連の法制度の変遷
31	精神保健	15回	問題37	(問題文)	精神科ソーシャルワーカーの活動の歴史
32	精神保健	15回	問題75	(問題文)	精神障害者の入居施設及び居住支援の歴史
33	精神保健	16回	問題1	(問題文)	精神医学に貢献した人物
34	精神保健	17回	問題24	(選択肢)	ベヴァリッジ報告, シーボーム報告, ウルフエンデン報告, パークレイ報告, グリフィス報告
35	精神保健	17回	問題36	(選択肢)	ケネディ大統領教書, 法律180号(パザーリア法)
36	精神保健	18回	問題1	(問題文)	法律第180号の制定運動に関わった人物
37	精神保健	18回	問題24	(問題文)	精神科ソーシャルワーカーの歴史
38	精神保健	18回	問題36	(問題文)	精神保健医療福祉の事項と人物
39	精神保健	19回	問題22	(問題文)	日本のソーシャルワークの形成過程に関する人物と事項
40	社会	21回	問題1	(問題文)	我が国の社会福祉の歴史
41	社会	21回	問題9	(選択肢)	濃尾地震, 大正関東地震, 福井地震
42	社会	21回	問題11	(選択肢)	イギリスの救貧法, ドイツの疾病保険, 最初の社会保障法, ラロック, ニュージーランド社会保障法
43	社会	21回	問題21	(問題文)	イギリスの改正救貧法の原則
44	社会	21回	問題32	(選択肢)	1960年代, 1970年代, 1980年代
45	社会	21回	問題33	(問題文)	19世紀イギリスにおけるボランティアによる活動・運動
46	社会	21回	問題95	(選択肢)	障害者インターナショナル, 国際リハビリテーション協会, CBR
47	社会	21回	問題107	(問題文)	人物と業績
48	社会	22回	問題22	(選択肢)	1950年の勧告, テイトマス
49	社会	22回	問題23	(問題文)	イギリスの救貧法等の福祉制度の発達過程
50	社会	22回	問題24	(問題文)	20世紀前半における福祉制度の発達過程

51	社会	22回	問題28	(選択肢)	1970年～1980年代末, エスピン・アンデルセン
52	社会	22回	問題32	(選択肢)	岡村重夫, ロスマン, 三浦文夫, 右田紀久恵, ティトマス
53	社会	22回	問題34	(問題文)	地域福祉の源流をつくった人物
54	社会	22回	問題49	(選択肢)	社会保障制度に関する勸告, 大西洋憲章
55	社会	22回	問題58	(問題文)	我が国の現行生活保護法が成立する経過
56	社会	22回	問題86	(問題文)	ソーシャルワークの形成過程
57	社会	22回	問題119	(問題文)	第二次世界大戦後の我が国の高齢者保健医療福祉制度の発展過程
58	社会	22回	問題129	(選択肢)	障害者に関する世界行動計画
59	社会	23回	問題24	(問題文)	我が国における第二次世界大戦終了以前の福祉制度の発達過程
60	社会	23回	問題25	(問題文)	日本における戦後の福祉政策
61	社会	23回	問題26	(選択肢)	ブース, ラウントリー, タウンゼント
62	社会	23回	問題33	(選択肢)	ベヴァリッジ報告, シーボーム報告, ウルフenden報告, パークレイ報告, グリフィス報告
63	社会	23回	問題56	(問題文)	我が国の公的扶助制度の沿革
64	社会	23回	問題84	(問題文)	イギリスの慈善組織協会
65	社会	23回	問題85	(問題文)	ソーシャルワークの発展に重要な役割を果たしたミルフード会議報告書
66	社会	23回	問題130	(問題文)	障害者福祉制度の発展過程
67	社会	24回	問題23	(問題文)	福祉の思想や原理
68	社会	24回	問題24	(選択肢)	工場法, フランスの家族手当制度
69	社会	24回	問題25	(選択肢)	1980年代以降
70	社会	24回	問題34	(問題文)	社会福祉協議会の歴史
71	社会	24回	問題55	(選択肢)	プロイセン一般ラント法, ラロック・プラン
72	社会	24回	問題56	(問題文)	旧生活保護法
73	社会	24回	問題129	(問題文)	障害者福祉の歴史的展開
74	社会	25回	問題22	(選択肢)	1962年の答申・勸告, 孝橋正一, ティトマス
75	社会	25回	問題24	(問題文)	福祉社会の歴史
76	社会	25回	問題34	(問題文)	地域社会において生活を支えてきた仕組み
77	社会	25回	問題50	(選択肢)	健康保険法, 国民健康保険法, 老人保健制度
78	社会	25回	問題64	(問題文)	我が国における戦前の低所得・貧困者救済
79	社会	25回	問題92	(選択肢)	全米慈善矯正会議, ハル・ハウス, フレックスナー, ミルフード会議
80	社会	25回	問題139	(問題文)	我が国の第二次世界大戦前の各法における児童の対象年齢
81	社会	26回	問題33	(問題文)	地域福祉の発展過程
82	社会	26回	問題50	(問題文)	社会保障制度の歴史
83	社会	26回	問題93	(選択肢)	ニリエ, バンク・ミケルセン
84	社会	26回	問題128	(問題文)	老人福祉法が制定された1963(昭和38年)当時の状況
85	社会	26回	問題138	(問題文)	我が国の児童福祉の歴史
86	社会	27回	問題25	(選択肢)	救済制度の対象者
87	社会	27回	問題33	(問題文)	地域福祉にかかわるイギリスの歴史
88	社会	27回	問題50	(選択肢)	社会保障制度審議会勸告, ILO第102号条約, 難民条約
89	社会	27回	問題56	(問題文)	障害児者福祉制度の歴史的展開
90	社会	27回	問題75	(問題文)	日本における医療ソーシャルワーカーの職能としての発展
91	社会	27回	問題93	(問題文)	日本におけるソーシャルワークの形成過程
92	社会	28回	問題24	(問題文)	イギリスにおける貧困対策の歴史
93	社会	28回	問題34	(問題文)	セツルメント
94	社会	28回	問題58	(問題文)	障害者福祉制度の発展過程
95	社会	28回	問題63	(選択肢)	恤救規則, 救護法, 旧生活保護法
96	社会	28回	問題137	(問題文)	日本の児童福祉の歴史
97	社会	29回	問題16	(問題文)	日本におけるコミュニティ政策の展開
98	社会	29回	問題32	(選択肢)	地域福祉の学説
99	社会	29回	問題33	(問題文)	ベヴァリッジ報告, シーボーム報告, ウルフenden報告, パークレイ報告, グリフィス報告
100	社会	29回	問題34	(問題文)	日本における地域福祉の前身
101	社会	29回	問題35	(選択肢)	アメリカの福祉権活動, 方面委員
102	社会	29回	問題49	(問題文)	日本の社会保障の歴史的展開
103	社会	29回	問題93	(問題文)	慈善組織協会
104	社会	29回	問題94	(選択肢)	ミルフード会議の報告書
105	社会	29回	問題127	(問題文)	老人福祉法の展開
106	社会	29回	問題138	(選択肢)	第1回ホワイトハウス会議

歴史設問抽出基準ワードから、社会福祉の歴史における「動向」、「人物」、「運動」、「政策」、「計画」というカテゴリーに区分した。

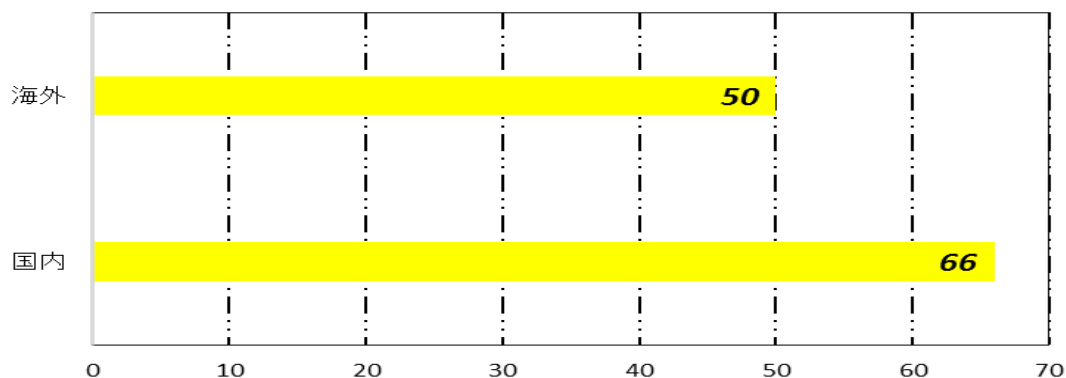
動向	人物	運動	政策	計画
28	22	23	40	4

設問カテゴリー区分(重複あり)



国内	海外
66	50

国内・海外別設問数(重複あり)



動向に関する設問が 28 問、人物に関する設問が 22 問、運動に関する設問が 23 問、政策に関する設問が 40 問、計画に関する設問が 4 問出題された。

海外に関する設問が 50 問、国内に関する設問が 66 問出題された。

7. 国家試験の統計からみる社会福祉の歴史における「衰退」の実態

先行研究の整理から出てきた問いに対して、本調査で明らかになった実態を踏まえると、「実践」を意識した出題＝社会福祉の歴史における「出題」の衰退、とまでは言い切れないようである。なぜなら本調査の集計から明らかであるように、介護福祉士は 24 回から、精神保健福祉士は 15 回から、社会福祉士は第 22 回からそれぞれ新試験科目が導入されたが、歴史に関する出題数の差異は最大値で 4 であり決して大きい数値ではなかった。また、新試験科目が導入されてから全く出題されなかったのは介護福祉士の第 29 回のみであり、それを除けば毎年歴史に関する設問は出題されている。

むしろ、本調査によって考えられることは、歴史に関する出題内容の「レパートリー、幅の狭さ」にあるのではないか。これはつまり、旧試験科目から新試験科目に変わっても、求められている歴史の知識は大きく変わってきてはいないのである。それは、表 3 中の「歴史設問抽出基準ワード」から把握できる。例えば、「ベヴァリッジ報告」などといった報告に関する設問は、精神保健福祉の第 17 回、社会福祉士の第 23 回、第 29 回に出題され、「イギリスの救貧法」に関する設問は、社会福祉士の第 21 回（旧試験科目）、第 22 回（新試験科目）に出題されている。したがって、幅の広い社会福祉の歴史教育の教授法が、国家試験における歴史設問の出題基準との間において、多少なりとも影響を与えるといった議論の余地を持てそうである。

また、「実践」を意識した出題」とは言うものの、この「実践」を歴史ありきで捉えるか否か、たとえば社会福祉「実践史」という研究があるように、それによって国家試験の出題の方向性も左右されるのではないだろうか。

本研究の限界と今後の課題

本研究において 106 問の歴史設問データを抽出することができたが、歴史設問の抽出基準がまだ曖昧な部分がある。それは「歴史をどう捉えるか」という問いにも接続される。単に戦前、昭和期の問題内容が歴史設問であるとも言いきれない。歴史とは、極端に言えば、昨日のこともすでに歴史であるわけなのだから、近年の動向に関する問題も含めるとすればデータ数はさらに追加されるだろう。

また今回は過去 10 年間の国家試験の問題に限定したが、それ以前の国家試験の歴史の出題を追跡調査することで、さらに具体的な実態を実証できる。

註

- 1) 東北地域社会福祉史研究連絡会（2017）『会報 No.39』、東北地域社会福祉史研究連絡会、3 頁。
- 2) 社会福祉士及び介護福祉士国家試験の在り方に関する検討会（2008）『社会福祉士及び介護福祉士国家試験の今後の在り方について～20 回の実績を踏まえた検証と新カリキュラムへの対応』、厚生労働省、1 頁。
- 3) 社会福祉士及び介護福祉士国家試験の在り方に関する検討会（2008）『社会福祉士及び介護福祉士国家試験の今後の在り方について～20 回の実績を踏まえた検証と新カリキュラムへの対応』、厚生労働省、2 頁。
- 4) 精神保健福祉士国家試験のあり方に関する検討会（2011）『精神保健福祉士国家試験の今後のあり方について』、厚生労働省、2 頁。
- 5) 野口友紀子（2016）「歴史教育委員会（第 6 次）報告 3 章 なぜ社会福祉で歴史を教える必要があるのかー現代とのつながりの観点からー」『社会事業史研究』第 49 号、社会事業史学会、129 頁。
- 6) 野口友紀子（2016）「歴史教育委員会（第 6 次）報告 3 章 なぜ社会福祉で歴史を教える必要があるのかー現代とのつながりの観点からー」『社会事業史研究』第 49 号、社会事業史学会、131 頁。
- 7) 小池桂（2016）「歴史教育委員会（第 6 次）報告 4 章 社会福祉専門職養成における歴史教育の軌跡」『社会事業史研究』第 49 号、社会事業史学会、134 頁。